

## 令和8年度 第1回石川県男女共同参画審議会議事録

日時：令和8年4月30日（木）9時半～10時半

場所：石川県庁行政庁舎11階1109会議室

### （成瀬生活環境部長）

本日は大変お忙しい中、石川県男女共同参画審議会にご出席いただき誠にありがとうございます。

委員の皆様には、いしかわ男女共同参画プランの策定に向け、昨年7月の審議会開催を皮切りに、3つの小委員会などを通して、それぞれの専門的なお立場から様々なご議論をいただきまして、積極的に議論を重ねてまいりました。

こうした皆様方からのご意見、ご議論に加えまして、先月実施したパブリックコメントでいただきました貴重なご意見も反映させ、本日ここに新プランの答申案を取りまとめさせていただきました。

皆様にはこれより答申案についてご審議いただくこととしておりますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

### （八重澤会長）

皆様おはようございます。審議会の運営にあたりまして、各委員のご協力をいただきますようどうぞよろしくお願いいたします。次第に従いまして進行させていただきます。まず、議題の「いしかわ男女共同参画プラン2026」策定の答申案について、事務局から説明をお願いします。

### （山若生活環境部次長兼女性活躍・県民協働課長）

委員の皆様におかれましてはお忙しい中、男女共同参画審議会にご参加をいただき誠にありがとうございます。本日は全体の概要と主な修正箇所、そしてその趣旨をダイジェスト版の方で説明をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは資料1の「いしかわ男女共同参画プラン2026（案）」ダイジェスト版表紙の方をご覧ください。副題について、これまで審

議会等でも色々ご意見をいただきましたが、目指す方向性を端的に表して分かりやすいといったご意見がありましたので、副題は残す方向で検討をしております。その上で「あなたも私も共に活躍できる石川へ」という言葉を前回の審議会の方でご審議いただき、こうした表現がよいというご意見が複数あった一方で、活躍ばかりではなく休める時には休もうといったニュアンスですとか、家事・育児を頑張る人も尊重する視点が必要といったご意見をパブリックコメントの方でもいただきましたので、表題の方を「あなたもわたしも自分らしく生きられる石川へ」としております。

続きまして1ページ目をご覧ください。こちらは策定の趣旨となります。言葉が足りず伝わりにくかった表現のところは修正させていただいておりますが、この趣旨全体は特に大きく修正はしておりませんので、ここでの説明は割愛させていただきます。

下の段になります。こちらは策定の趣旨を補足する調査結果等になっております。また、誰にでも分かりやすくというご意見は審議会の方でもありましたし、パブリックコメントの方でもありましたので、言葉の意味もそうですが理解を深めていただければと思い、注釈を追加しております。今見ていただいているところでは、無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）について記載をしております。また、後ほど見ていただければと存じますが、3ページの下の方には「ジェンダーに基づく暴力」についても追加をしております。また本文の方でも「ヤングケアラー」という言葉であったり、「困難な問題を抱える女性」等の注釈を追加しております。

2ページ目をご覧ください。こちらは基本理念になります。基本理念については当プランの石川県男女共同参画推進条例に基づく基本理念に沿って計画的に推進するということをしっかり示したほうがよいというご意見もいただきましたので、丁寧な説明の方に修正をしております。特に前回の審議会でもご指摘をいただきました

(2) について、これまでは「社会における制度や慣行についての配慮」と記載をしておりましたが、分かりにくいというご意見もありましたので、基本理念が示す趣旨が伝わりやすいように、「性別

による固定的な役割分担意識や無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）を反映して、社会の制度や慣行が、社会活動に中立でない影響を及ぼすことがないように配慮すること」という風に表現を修正しております。

なお、前回の審議会では基本理念を象徴的に表すという意味で、キーワードとなる「3つのC」というものをお示ししました。この3つのCというのは、基本理念を表す言葉を英語で表し、その頭文字3つのCを表していましたが、その言葉として「チャンス

（Chance）」「クリエーション（Creation）」「コラボレーション（Collaboration）」を使っていたところ、しっくりこないというご意見も複数いただきましたので、見直しをさせていただき、基本理念の趣旨を端的に表す言葉としまして、「機会（Chance）」「配慮（Care）」「相互理解（Communication）」としました。コミュニケーションは相互理解そのものではありませんが、相互理解を進める上ではコミュニケーションが必要ということで、誰でも分かりやすいという意味で使用しております。これらを本県が示す男女共同参画社会の方向性とさせていただいております。3つの方向性の趣旨につきましては、この3つの色がついたところになります。1つ目は「社会や組織のあらゆる分野において、誰もが個性と能力を発揮する機会（Chance）が得られる社会」。2つ目としまして「誰もが健康で安全・安心な生活を送ることができるよう、災害の教訓も生かして、個々の状況に寄り添い配慮（Care）する社会」。3つ目としまして「無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の解消に取り組み、国際社会の動向も勘案しながら、誰もが多様な価値観を相互に理解（Communication）し合う社会」となっております。

次に3ページ目をご覧ください。こちらはプランの体系となります。今ほどの3つの方向性に基づき、取り組む施策を示しております。シンプルで分かりやすい内容がよいというご意見もございましたので、項目を集約整理しております。内容につきましては、集約したことでまとまった部分もありますが、基本的には取り組むべき

施策のボリュームは変わらないようにしております。4 ページ目以降になります。3 つの方向性ごとに取り組む施策の方向、概要とそれに対する数値目標を記載しております。

最後に 7 ページ目をご覧ください。こちらは数値目標になります。今ほどご覧いただいた主なものを含む 24 項目を設定しており、プランの着実な推進を図ることとしております。

追加修正した項目について申し上げますと、4 行目の「男女間の賃金格差」の項目を追加しております。それから 8 行目の「県職員男性の 1 月超の育児関連休暇・育児休業取得率」を集約して新たに項目として設けております。資料の説明は以上となります。委員の皆様には今ほど説明した内容のほか、資料 2 としてお配りしております、全文の方も合わせてご意見をいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

#### （八重澤会長）

どうもありがとうございました。ただいまの内容につきまして、ご意見、ご質問などありましたらご発言をお願いいたします。どなたからでもよろしくお願いします。皆様、先日ご意見をおっしゃったと思うんですが、それがちゃんと反映されているかどうか、それから不明確なところがありましたら、ご発言いただきたいと思います。

#### （高橋（涼）委員）

最初の「策定の趣旨」の 3 行目から 6 行目の文章になるんですけども、趣旨ははっきり分かるのですが、文章がもう一つこなれたほうがいいなということで、「しかしながら依然として、固定的な性別役割分担意識や」というところで、特に子育てや介護等のライフイベントに関しては「女性において仕事との両立のしづらさが見られ」の次で、「家庭内の理解・協力や、職場においてはライフステージ」と、「おいては」とか「おいて」という言葉が少し硬いなと思います。例えば 2 つ目の「職場においては」というところは

「職場での」という風に変えた方が、もう少し柔らかくていいかなと思った次第です。

(八重澤会長)

どうもありがとうございました。事務局の方で何かありますか？

(山若生活環境部次長兼女性活躍・県民協働課長)

ありがとうございます。おっしゃるように表現を柔らかくした方がいいと思いますので、修正させていただければと思います。

(八重澤会長)

皆さん、いろんな方の意見に触発されて、意見が出るかもしれませんが、私の方から少し提案させていただきます。例えば3ページをご覧になっていただきますと、「国際社会の中の日本」「日本の中の石川」という相対的な視点の反映とありますが、これは一つのところで完結するのではなく、例えば別姓の問題にしても、世界（国連）からは是正するよう勧告を受けているんです。そういったことから、もう少し相対的な視点が必要なんじゃないかというんですが、これは「相対」でいいのか、それとも「比較の視点」だとか「グローバルな視点」だとか「多様な視点」だとか、色々言葉があると思うので、少しそれを討論していただけますか？

(久保委員)

確かに相対的な視点、比較の視点というお考えを八重澤先生が出されたのは理解できますが、他の意味をも持ってしまうように思います。「どこかと比べて良い」とか「まだマシだ」ということにもなりかねない。分かりやすい表現を、ということですので、今仰って頂いた「グローバル」であるとか、あるいは「国際社会の中の日本、日本の中の石川」という「より広い視点」あるいは「日本の中の石川を考える視点」など、分かりやすい表現になったほうが伝わりやすいのではないかと考えます。

(中村委員)

久保先生のご意見に賛同いたします。「グローバルな」という風にしてしまうと「日本の中の石川」というところもあるので、より広い視点からの方が、趣旨がより伝わりやすいのかなと感じました。

(浅野副知事)

今の点について、こちらで「比較の視点」と書いた趣旨は、石川県が遅れているということを偉そうに言うものではありませんが、やはり日本は世界から結構置いていかれていますよね、というところを強く意識しようとか、あとは日本の中でも女性、特に若い女性がなぜ東京に出ていってしまうのか、という話ですね。根本的な話はここにあって、そのあたりを強く意識していかねばならないというメッセージで書いたというのが趣旨でございます。

やはり世の中はこうなっているよね、ということがちゃんと伝わるのが重要とおっしゃって、その観点で皆様はどうでしょうか。

(八重澤会長)

趣旨は皆様ご理解頂いたと思うのですが、何か他に意見がある方はどうぞおっしゃってください。

(浅野副知事)

今申し上げたところで、久保委員の先ほどの話は、その観点ではいかがでしょうか。ご趣旨が理解できなかったものですから、その観点が伝わる、伝わらないという話なのでしょうか。

(久保委員)

はい、「相対的な視点」という表現だと、これを見た人はどういうことを意味しているかわからないのではないかと、ということです。今のようなご説明があれば理解はできるのです。けれども、

「相対的な視点」という表現をどう考えれば良いか。意図が伝わりにくいと考えます。

(浅野副知事)

それは、使うべき言葉は「比較」が良いのでしょうか。

(久保委員)

「相対的な視点」か「比較する視点」かという論点であれば、「相対的」よりは「比較」のほうがよいと思います。

「比較する視点」ということを、その言葉を使わずに言うのであれば「国際社会の中の日本、日本の中の石川を考える」という言い方になるのかなと思いました。

(八重澤会長)

少し戻してしまいますと、久保委員は「広い視点から」とか「広い視野から考える」って最初におっしゃったのですが、言葉のニュアンスを忘れてしまったので、中村先生に補足説明をお願い出来ますでしょうか？

(中村委員)

今の副知事のご意見を聞いて思ったのですけれども、要するに、石川県が国際標準とか日本標準から比べてまだまだ遅れているんじゃないですかという意味合いを入れ込もうとすると、相対的とか比較的とかを入れずに、「「国際社会の中の日本、日本の中の石川」という「視点」」という形でも通じるような気がしています。「比較」とか「相対的」を入れてしまうと、久保委員が先ほど仰られたように、違う方に行ってしまうので、「国際社会から見た石川、日本から見た石川はどうなの」という、ストレートにはっきり方向が伝わるような言葉を探すと思います。ただ、なかなかいい言葉が思いつかないので、むしろ比較とか相対的なものを取ってしまった方がより分かりやすいかなと思います。「国際社会から見た日本

と日本から見た石川という視点」ということで、気付いていただくとか、遅れていませんか？ということをはっきり言わずにするということですね。

**（八重澤会長）**

ありがとうございました。つまり今までのことをまとめますと、「比較をする」視点とか「相対的な」視点というような、視点の前につく言葉を削除するということによろしいですね。削除した方がより適切であるということですね。

**（中村委員）**

はい。視点のポイントをどこに定めるか、ということが明確になるかなと思いました。

**（八重澤会長）**

はい、わかりました。そのほかの委員の方は、いかがですか。

**（高橋（健）委員）**

国際交流協会の高橋です。先ほど副知事が仰ったように、比較の意識が強い表現であれば、前後を逆にして、「日本の中の石川、国際社会の中の日本である視点の反映」。あくまでも石川は大事なんだけど、当然石川県は日本の中であり、日本は国際社会の中である、という視点というのはどうでしょうか。

**（八重澤会長）**

「相対的な」とかを取ってしまって、日本と国際社会を逆にして、「・・・という視点の反映」ということでいいんですね。

**（高橋（健）委員）**

はい。「である」で言い切ったほうが、強く聞こえますね。

**(轟委員)**

これは広く今までこういうことに関して強い問題意識を持つとか、考え続けてきた人だけではなくて、一般の皆様方にお示しする文章なので、分かっているれば相対的な視点とかというところにも行き着いて納得されると思うんですけど、もっと前からの話の中で言えば「国際社会の中の日本、日本の中の石川という視点で考える」という表現の方が、「そういうことだな。そういう視点が大事なんだな」という入り口に皆さんに立っていただけるのではないかなと思いますので、その辺の柔らかな表現でもいいのではないかと思います。

**(八重澤会長)**

わかりました。大多数の委員の方が頷いていらっしゃるんですけど、もっと違う意見をお出しになる方がいらっしゃったら仰ってください。いかがでしょうか。

**(浅野副知事)**

私は、他県出身ということもあり、特に比較の視点を持っているのですが、あとは中にいる女性の方々に、本当はどう思っているんですか、ということをお聞きしたいです。遠慮がちで丸い言い方をしていると何が言いたいのか分からないという話は現実であって、ここにいらっしゃる委員の皆さんでどうしたいのかな、どこまでストレートに強く伝えられるのかな、というところは、お考えになられたら良いのではないかと思います。あえて「国際社会の中の日本、日本の中の石川」って言葉を並べたのは、先ほど申し上げたように、もう比較の一言に尽きます。比べることをした方がいいですし、あとは明らかに石川の女性が外に出ていく状況は、比較した上で判断して出ていっているのです、ここより良い何かを求めて出ていかれているという話もきっとあると思います。皆さんがどうお考えになって言葉を紡がれるのか、一番分かりやすいか、というご判断が必要だと思います。

**(八重澤会長)**

趣旨は非常によく分かっておりますし、多分委員の方々もみんな同じような、浅野副知事と同じような考えだと思います。

まだご発言していただいていない方で、私はこれが良いのではないかと思われるようなことがあれば、あるいは今まで出尽くした言葉のなかで結構ですので、何かございますでしょうか。新しくこの会に加わりました高田さん、フレッシュなところで教えてください。何かございますか。

**(高田委員)**

7 ページのところに数値目標、比較項目というところがありまして、これからプランが出来上がって進めていく時に何かと比較しながら、こうした数値と比較しながらおそらく検証されていくのだと思いますので、「比較」というような何かの表現はあった方が良いのではないかと思います、拝見しておりました。

**(八重澤会長)**

大変貴重な意見ありがとうございました。

**(中村委員)**

私は個人的には「日本の中の石川」、日本もかなり国際的に遅れている部分があると思いますので、「日本の中の石川」というものは入れずに、例えば「国際社会と比較して」とか、そんな風にしてみたらどうかと思います。とにかく日本の中で比べてどうかなんていう話をしていたら全然足りないので、もう一気に国際社会の中で、というと、国際社会の中でも日本よりまだまだというところもありますが、「日本の中の石川」と言うとすごく狭くなってしまうので、こっちのほうもいいかなと思います。「国際社会から見た石川」とか、そこまで行ってしまってもいいのかなと思いました。

**(八重澤会長)**

どうもありがとうございます。他の委員の方いかがですか？資料として出てくるのは日本全体の比較ですけれども、男女共同参画に関しましては我が県が一番進んでいたっていいわけですから、本当にそうであればいいなと思いながらプランを策定しているのですが、国際的に見れば、日本は圧倒的に歩みが遅いということで、多くの人が困っている、イライラしている、もっと早くできないかということを考えているのは一緒だと思います。他はどうでしょう。松崎委員いかがでしょうか。

**(松崎委員)**

私は、やはり「日本の中の石川」という言葉もあった方がいいと考えます。確かに国際的なレベルまで上げなければいけないとは思いますが、まずは身近である国内の先進的な地域と比較して、近づき追い越すということが、分かり易く、取り組みもし易いので、入れた方が良くと思います。

**(八重澤会長)**

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

**(久保委員)**

今の意見も参考にさせていただくと、「日本の中の石川」、そして広く見てほしいということであれば「世界の中の石川」というように、石川をどう位置づけるかを示すことができれば好ましいと思います。「国際社会の中の日本」というのは確かに石川県の目標や標語としては少し不適切かもしれません。それよりも「石川」を考える、日本で、そして世界でトップランナーとなれるような石川を考えるということであれば、「日本の中の石川、世界の石川」ということで両方とも石川にしてしまう。身近なところから世界へと、順番を逆にするというのもいいかなと思います。

**(廣澤委員)**

私は両方あってもいいかなと思うんですけど、パッと読んだ時に「中の」という言葉がすごく引っかかりました。社会でも日本でもどちらでもいいのですが、「中の」と言うと少し惑わされます。

最初に中村先生がおっしゃったように、例えば「日本から見た」とか、その「見た」という言葉だと明確に感じられますが、「何々のなかの日本」「日本の中の石川」となるとよく分からなかったので「見た」という言葉だと、すごく視点が入っていて分かりやすいと思いました。

**(八重澤会長)**

ありがとうございます。矢花さん、いかがでしょうか。

**(矢花委員)**

私も他の項目に比べたらこの「国際社会の中の日本、日本の中の石川」という言い方は、やはりピンときにくいというのは感じます。何がじっくりこないのか分かりませんが、少し分かりづらいなというのを感じています。

ただ何がどう解決すると分かりやすくなるのかは思いつかないので、今の廣澤さんの意見ですともう少しじっくり来るような気がしています。

**(久保委員)**

「日本の中の石川」という言葉を使うのであれば最初に出して、「日本の中の石川から、世界の石川という視点へ」というような言い方もあるのではないかと思います。

**(八重澤会長)**

だんだん複雑性を帯びてきたような気がしますので、少しここで切り替えましょう。今出ている意見を、多分事務局の方がこれからまとめられると思うんですよね。

皆さんが思っているのは、基本的にはちゃんと比較する視点、自分たちだけで絶対だと思っていはいけないんだよ、まだまだやるべき伸び代はあるんですよということを、なんとかうまく言葉に収めたいと思っているんですね。

ですから、それを考えて、事務局の方は作っていただくことができますか？それとも、ここでやってしまいますか？

**(山若生活環境部次長兼女性活躍・県民協働課長)**

色々頂いた意見を、今ここでまとめてしまうというのは中々難しいと私どもも考えておりますので、頂いた意見を踏まえて事務局案をいくつか提案させていただいて、また皆さんのご意見を、意見照会という形でお聞きする形でもよろしいでしょうか。その際に、また新しいご意見が出る可能性があるとも思っています。

**(八重澤会長)**

分かりました。このフレーズの心は多分皆さんに共有されているという風に思いますので、よろしく進めていただければと思います。よろしくお願いします。他にいかがでしょうか。

**(轟委員)**

ここの部分を私達は内容を共有していてそういうことだなと思うんですけど、施策のところで、その意味が分かるように、どういうことをやっていくかというところを少し噛み砕いて表現すると、何を求めてこういう表現なのかなというところに繋がるかなと思うので、そこで説明も兼ねたような「こういうことをやっていきますよ」「こういうことを理解してください」「こんな差があるんですよ」というようなことを分かってよというようなことを表現すると、皆さん分かりやすいかなと思いました。

**(八重澤会長)**

本当にその通りだと思います。(1)と(2)のところをもう少し

分かりやすく具体的に、ということで宜しいですね。ではそのようにお願いいたします。他はいかがでしょうか？

**（高橋（涼）委員）**

今の轟委員の話を聞いて、確かにこの項目のところの6ページになりますかね。具体的に取組8のところは何もデータとか入っていないので、例えば都道府県別のジェンダーギャップの資料とか、国際社会のジェンダーギャップ指数の資料とか、どちらか1つでもいいですが、少し差し挟んでいただけると、何をここで言いたいのか分かるかなと思います。

この（1）とか（2）は非常に漠然としていて、石川の中だけにとどまっていなくて、広い視点で見て追いついたりとか、良いところをどんどん取り入れようという視点は、（1）とか（2）だけだと少し伝わらないと思います。もう少し突っ込んで進めたいということが伝わるように、ここの書きぶりでもいいですし、データとして日本社会、国際社会のそれを入れるだけでも「ああ、こういうことだ」という風に分かるかなと思いました。

**（八重澤会長）**

高橋先生、例えばこういうことでしょうか？ジェンダーギャップなんていうのはもうしょっちゅう毎年出されていますよね。そういうものの変遷とかを出すだけでも随分分かりやすいですよ。

**（浅野副知事）**

高橋先生からのご指摘の件について、比較の対象として何かちょっと良いものがあればいいのですが、例えば「石川県において女性ってこういうことを言われるよね」とか「石川県ではこういう扱いをされたり、こういうものだと思われて、そういう見なされ方をしで扱われたりするけれども、東京や海外ではどうなのか」という話であって、誰もが「そういうところが良いよね、良くないよね」という部分が分かる、定性的な話の方が分かりやすいのかなという気

はしています。もちろん、定量的なものがあればより良いとも思っています。

**（高橋（涼）委員）**

今の意図の説明が足りなくて申し訳ありません。例えば世界経済フォーラムが発表している世界の中の日本の順位というのと、それから上智大学の三浦先生たちが毎年発表していらっしゃる都道府県ごとのジェンダーギャップがあって、ちょうど最新版が出たばかりかと思うんですが、その中でも石川県は、総合で見ると結構低くなっていますので、あんまりエンパワーな感じではないんですが、それを二つポンポンと載せると、相対的に見てこうだよというのは視覚的にパッと伝わりやすいかなと思いました。

**（浅野副知事）**

ありがとうございます。今、実は人口減少問題というものを石川県として改めて正面から捉えて、庁内で各部を挙げて色々な施策を糾合していくという話を進めています。

これはまた秋に国勢調査の今後データがどんどん出てきて、結構流出がすごいね、という、例えば能登とかもそういう数字がおそらく出てくると、プラスあとは全体的に減っている傾向という話で、その背景の一つとして、やはり女性が出ていってしまっているという話をマクロの数字として私たちが突きつけられるタイミングというのがこの春・秋にあるんですね。

ちょうどそのタイミングで今回のビジョンというものが出てくるわけです。なので、この数字が突きつけてくる裏側には何があるのか、何を真摯に向き合わなきゃいけないのか、という意味では、今高橋先生が仰って頂いたような比較の観点という話をまさに直視しましょうという話とともに、あとは結局、何が原因なのかという話で言うと、少し定性的な記述があってもいいかなとも思うのですが、そういったものがうまく拾えるのか疑問があります。「こうい

う場面だよ、こういう場面」みたいな話とかが本当は相応しいと思っております。

事務局から素案を出しておいて、そこを考えてみたら分かりにくいかな、ということもあったりしましたが、足してみてもいいのかなとも思いました。

**（八重澤会長）**

定性的なデータというのは、結局、掲載すると「個々人の問題じゃないか」と思われる節があるので。統計資料があるともっと全体像が見えるというか、おそらくそういうことをみんな考えていたのではないかと思うんです。（注：定性的データは共通認識を持つことが難しいため）

**（浅野副知事）**

県民の皆様向けの、要するにわかりやすさとか、あとは確かにそういうところあるよね、という気づきというか。

データで示されるだけだと、わからないところはあったりするので、皆さんはどう思われるかな、というところを私は投げかけてみただけです。

**（八重澤会長）**

ありがとうございます。わかりました。

今までずっとお聞きになって、もしお気づきの点がありましたら。能木場委員、いかがですか？何か全体にご覧になっていて、ご感想などございますでしょうか？

**（能木場委員）**

はい。今、石川県の、特に女性の皆さんが、少し引っ込み思案でなかなか表に出るのも遠慮がちでという方が多かった中で、最近は色んな分野で女性の皆さんが活躍されていて、石川県はすごく変わってきたな、という思いがあります。

ずいぶん前のことですが、私の知り合いの方で、定年を境に関東方面へ行かれ、生涯向こうでお過ごしになっていらっしゃる方がいます。

そんな方がいらっしゃる中で、石川県にずっと立てこもっている私は、「ああ、いつまでこんなところにいるのだろうか」と思いながらも、役をいただいて務め上げる中、皆さんからいろんなご意見も頂き、最近になって、女性の皆さんが活躍されていることを目にするようになりました。

そんな中で先ほどからの国際的な中のとか、日本の中での比較、そんなことももちろん大切に良いことだと思っています。指数の表し方で良いかなという風に思っています。

とにかく他の皆さんと、太平洋側の皆さん、日本全国の皆さんと比べて石川県も元気だよってことをぜひ県民の皆さんに知らせていただく、それが良いかなと思っています。

それからもう1つは、石川県の目指す男女共同参画の3つのCがあります。この中で2番目の配慮のところの「ケア（Care）」です。災害の教訓ですごく、色々な方に寄り添って配慮する。これは本当に大事なことで、私はまだ2年半ですが、まだまだお声がけ1つしても、まだ少しのことで能登の皆さんを傷つけることがあったんじゃないかな、ということを思いながら支援を続けておりますけど、このケア、これは本当に大切なことなので、この言葉をここに入れていただいてとても嬉しく思っています。

#### （石野委員）

今、ダイジェスト版のことで話をしているので、さっきの最後の国際社会のことを蒸し返すわけではないのですが、ダイジェスト版ではなくて本編の方で見るというか、ダイジェスト版もそうですし、本編の方も比較的そんなにデータが文章に色々盛り込まれているというわけではなかったの、そこまで議論になると思っていなかったんですけど、そもそもこのプラン自体は今後どういう風に皆様にお知らせしていくのかという中で、誤解のないようにという

か、プランの趣旨が皆様によく伝わるようになれば、ここの表現が若干、尖った表現があったとしても理解いただけるのかなとは思いますが。この辺のところ丁寧な言葉というか、配慮した言葉を使う方が良いと思いました。

以前、パブリックコメントで色々意見を頂いたものも事前に見せて頂いたんですけども、特にこういうことに関心のある方については、色々なご意見があるんだろうなという中で、コミュニケーションを良くし、誤解のないようにすることも必要ではないかと感じた次第です。

**(吉田委員)**

よくわからないのですが、文章が柔らかいほうがいいというお話があったのですが、私はそういうところにこだわらなくてもよいのではないかと考えております。

**(山崎委員)**

私は、今回のプランに関しては特に異論はないので少し黙っていたのですが、これから先、中身のほうが大事になってくるのかなと思っています。このプランがあって、中身の施策に入っていくわけですね。

女性活躍、外国人の活躍、シニア活躍とか生産性向上とか、色々な人口減少対策がある中で、私は生産性向上が1番大きなキーファクターになるかなと思っています。女性が離職してしまったりとか、就業率が落ちてしまったりとか、そういった要因の1つとして、1番大きな要因として長時間労働というのが挙げられると思っています。それを解消することによって両立ができる環境が整っていったら、女性も管理職になりたい、働きたいという風に思えるようになってきたりとか、正規で働けるようになったりとか、ウェルビーイングを向上してきたりとか、そういったいい連鎖が続いてくると思うので、生産性向上に関して注力していくことが、まず、きっかけとしてはいいのかなと私自身はと思っています。

今回のプランに関しては異論がないんですけれども、中身を考える際に、例えば生産性向上の観点でいくと AI を活用していくとか、静岡県庁でも全庁職員が AI を活用できるように整えているというニュースも聞いておりますけれども、そんな形でどんどん AI を使っていくというというのも一つあるかなと思ってますし、各チーム、各組織、各企業、各職場で対話をして、しっかりとどういった理想的な働き方ができるのかということを、石川県としても支援をしていくのも一つ大事な事かなと思って聞いておりました。計画に異論はないです。

**(八重澤会長)**

はい、どうもありがとうございました。それでは全体的に他に何かございますか？

それでは、今少し課題も事務局の方に投げかけたものもあって、更にまた皆様に意見照会をすると思うので、その節はどうぞよろしくご返答をいただければと思います。そしてより良いプランにしていければと思います。